

宮廷装束意匠のボンボニエール

ボンボニエールとは、皇室や華族家の慶事などの際に配られる小さな工芸品である。明治中期頃から出現し、日本独自の発達を遂げた。現在の皇室においても、ボンボニエールを配る慣習は続いている。

ボンボニエールの素材は銀製が多いが、漆が施された木製や色絵の陶磁器で製作されることもある。形状はその慶事に相応しい意匠が用いられることが多く、特に立太子礼、成年式、結婚式などの際には、装束に関連したものが作られた。ここでは、装束関連のボンボニエールをいくつかご紹介する。

1、窠形鴛鴦文ボンボニエール

昭和天皇立太子礼
大正5年(1916)11月29日 当館蔵

立太子礼とは、正式に皇太子となる儀式である。この儀式には皇太子以外は使用することができない禁色の黄丹袍を着用し臨む(P2参照)。黄丹袍の文様は窠に鴛鴦丸(蜂の巣を形取った窠の枠に下向きになった鴛鴦一羽を収めたもの)である。この文様に倣い、大正、昭和、平成の立太子礼の際のボンボニエールの意匠にはすべて鴛鴦丸が用いられた。

2、柳筥付冠形ボンボニエール

三笠宮崇仁親王殿下御成年御祝
昭和10年(1935) 個人蔵

皇族男子が成年に達した際に行われる「加冠の儀」の賜冠を模したボンボニエール。「加冠の儀」は、未成年皇族の装束である浅黄闕腋袍(P6参照)に空頂黒幘を付けた姿で入場し、加冠役が空頂黒幘を外し、燕尾纓の冠を被せ、冠に掛緒を付けた後、あごで結び、紙捻りの両端を整え成人の証とする儀式。柳筥とは、柳の木を細長く三角に削って寄せ並べ、編んだ蓋付きの箱で、中には硯や冠などを納めるものである。本品のように蓋の棧を高くして冠台に用いることもあった。

3、檜扇形桜藤文ボンボニエール

竹田宮恒徳王・三条光子結婚披露
昭和9年(1934)5月12日 当館蔵

檜扇は女性皇族の婚礼装束である、五衣・唐衣・裳着の際に所持する。そのため檜扇形ボンボニエールは結婚の際に下賜されることが多い。ボンボニエールには通常金平糖が入ることが多いが、このボンボニエールは器高が低いため、菓子入れではなく、楊枝入れであったと考えられる。

(学芸員・長佐古美奈子)



1、窠形鴛鴦文ボンボニエール



2、柳筥付冠形ボンボニエール



3、檜扇形桜藤文ボンボニエール

学習院大学史料館からのお知らせ 平成29年度春季特別展 宮廷装束の世界

【主催】学習院大学史料館

【共催】一般社団法人霞会館

【協力】一般社団法人霞会館・衣紋道研究会

【会期・会場】

●平成29年4月1日(土)～5月27日(土)

開室：月～土曜 10:00～17:00

*4月16日「オール学習院の集いの日」特別開室

閉室：日曜・祝日

●北2号館1階 学習院大学史料館展示室

●入場無料

●ギャラリートーク ①4/16(日) ②5/20(土)

*いずれも14:00～ 展示室内 事前申し込み不要

【関連講座】

第82回学習院大学史料館講座

「公家・女房装束の着装と解説」

日時：5月13日(土)14:00～15:30(終了予定)

会場：学習院創立百周年記念会館正堂

講師：一般社団法人霞会館・衣紋道研究会

*入場無料 事前申し込み不要

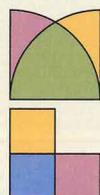
ミュージアム・レター第34号

2017年4月1日発行

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

電話 03(5992)1173

FAX 03(5992)9219



Gakushuin University Museum of History
学習院大学史料館

●ホームページもご覧ください

<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/ua>